

# imagine

2017 高生研静岡大会  
情宣紙



## しずおか高生研の春ゼミと第2回現地実行委員会開催！

さる3月20日(月)の春分の日には静岡市のアイセル21(正式には「葵生涯学習センター」と言います)で静岡高生研の春ゼミと全国大会第2回現地実行委員会がひらかれました。名古屋から久田さん、東京から今関さんが参加してくれました。前田浪江さんの今年の全国大会の基調発題にかかわる実践「Sくんがサルになった日」が春ゼミの実践

分科会で報告され、それについて討論しました。

この実践については、過去に何回も静岡で分析され討論されてきました。しかしそのつど新しい解釈や発見があります。この実践は基調にも記されていますが、Sくんの葛藤に徹底的によりそう担任の功罪について、とくに議論が集中しました。担任がケアしすぎたことで生徒同士の関係性をつくるチャンスをつぶし

てしまったという解釈や、反対に、そのケアによって大人しいSくんが担任に「くっつく」ほどの自己表現ができるようになったという解釈などなど。基調発題全体のトーンに、この「Sくんがサルになった日」の実践が響いていることを感じました。



実行委員長 絹村俊明



第3号



静岡高生研 情宣班  
2017、4、23  
連絡先 塚本 徹





午後は夏の全国大会を現地で構想する第二回現地実行委員会がひらかれました。

実務的な話し合いとともに「いま高生研は何をめざしているのか」、「静岡の高生研は何を全国に訴え、何を発信しようとしているのか」という高生研運動全体の原点を問うような話し合いでもありました。この原点を常に心に留めおき、議論しながら、具体的な活動への展望を開いてゆく確認をしました。

さて、実務的な話し合いのあと、大会のオープニング劇のはじめての「稽古」をしました。午前の分科会「Sくんがサルになった日」の実践分析に出てきた場面を身体的に再現しながら、サル役のSくんたちの心境を追体験してみようというオープニング劇です。劇中劇であり、劇をメタ化する劇です。キャスト・



スタッフを脚本・演出の絹村さんがその時の英語劇の「稽古」よろしく厳しく「稽古」をつけてくれました。

## 大会の交流会に出たい！

静岡のユニークな活動の一つにエバーグリーンの活動があります。教員・高生研のメンバーだけでなく、高校生や大学生、市民があつまって活動を続けて13年目になります。

今年は3月26日（日）に藤枝市の生涯学習センターで、映画『うりずんの雨』のジャン・ユンカーマン監督の講演会・トークセッションがひらかれました。ユンカーマンさんは、「なぜ基地反対運動を70年も（世代を超えて）続けられるのか（まさに奇跡だ）」という「なぜ」がこの映画をつくるきっかけだったと言います。



そのあとみんなでおいしい手作り料理を堪能しましたが、ユンカーマンさんは、沖縄で「マリーナ・ゴー・ホーム」ではなく「ジョイン・アス！」と呼びかけると、米兵も手を振るようになったと言います。軍が恐れることは、相手は「敵」でないことに兵士が気づくことだ、と言います。

この活動を静岡大会の交流会でぜひ全国のみなさんにご紹介したいと考えています。

## □静岡大会□

■日 時：2017年  
8月5日（土）、6日  
（日）、7日（月）

■会 場：葵生涯学習センター（アイセル21）

■連絡先：塚本 徹  
（事務局長：金谷高校）

## 第55回高生研静岡大会参加申込書

ふ り が な

○ を

- お名前：（ ） ■宿泊：8/5（土）・8/6（日）
- 郵便番号 [ ] ■保育希望：あり・なし（○を）
- 終日一般分科会の8/6（日）の昼食の希望：あり・なし（○を）
- ご住所：（ ）
- お電話：（ ） ■Eメール（ ）
- 勤務先：（ ）